

## 1 水稻の生育状況

平坦地の早生種（あきたこまち）は登熟後期（収穫直前）です。「コシヒカリ」は登熟中期です。生育は平年より8日程度進んでいます。

## 2 適期刈取資料について

「適期刈り取りで一等米100%をめざしましょう(29年版)」を作成しました。普及センターのホームページに掲載しますのでご活用下さい。

## 3 刈り取り開始予測(8月24日現在)

出穂後、やや低温傾向で経過しているため、刈り取り開始予測は、7月31日版から田植え日、標高によっては1日程度遅くなっています。また、平年より2℃高温で推移した場合の予測日も前回の予測より1日程度遅くなりました。刈り取り始め適期は平年より5～8日早く、昨年より1日程度遅くなることが予想されます。

刈り取り予想の、「平年並みの気温」を参考に、収穫準備やRC稼働にご活用ください。

現在平坦部の「あきたこまち」は5月中旬植の場合、来週後半(30～31日頃)から収穫可能になってくると思われませんが、帯緑色籾歩合を確認して刈り始め適期を判断してください。

平坦部の「美山錦」も5月上旬植の場合、今月末から収穫可能になってくると思われませんが、帯緑色籾歩合を確認の上、判断してください。

### 8月24日 現在の刈り取り開始～成熟期予測

5月15日植 (標高550m)		出穂期 (中苗:大町奨汰から推定)			刈り取り開始			成熟期			
					登熟期間の気温		昨年	登熟期間の気温		昨年	平年値
		本年	昨年	平年値	平年並	平年より 2℃高		平年並	平年より 2℃高		
あきたこまち	稚 苗	7月26日	7月25日	7月28日	8月30日	8月30日	8月29日	9月4日	9月4日	9月3日	9月9日
	中 苗	7月20日	7月17日		8月24日	8月24日	8月21日	8月29日	8月29日	8月26日	
コシヒカリ	稚 苗	8月4日	8月3日	8月9日	9月11日	9月8日	9月10日	9月16日	9月13日	9月15日	9月24日
	中 苗	7月30日	7月28日		9月5日	9月3日	9月3日	9月10日	9月8日	9月8日	

注) 昨年度は、平28年 9月3日 の最終予測値、本年の稚苗あきたこまち、コシヒカリ の出穂期は実測値。

※他の標高・田植日については、水稻刈り始め予測（平年並み版・高温版）を御覧下さい

## 4 8月24日現在の品種別の高温登熟障害対策について

### ① 平坦地の早生種（あきたこまち、美山錦）について

収穫を迎える早生品種の対策ポイントは、「早期刈り取りをイメージした収穫開始」です。

胴割米の発生しやすい玄米体質に加え、収穫間際の降雨や刈遅れで、胴割米が多発する「危険」な状況です。

刈り始め予測を活用して「早めに刈取り準備を進め、圃場で帯緑色籾歩合を確認して、適期内に刈りきる」ようにお願いします。

帯緑色籾歩合については、適期刈り取りチャート（普及センターのホームページにも掲載しています）などを活用ください。

#### 【早生品種で特に注意する点】

高温の場合、茎葉の黄化が進まないで、刈り取り適期にもかかわらず、収穫開始が遅れて「胴割米→格落ち」となる場合があります。

必ず圃場で籾の状況（帯緑色籾歩合）を確認して、適期になり次第収穫を開始するようにお願いします。

また、フェーン現象で異常高温・極端な乾燥条件になると、白未熟・胴割米の発生が助長されます。

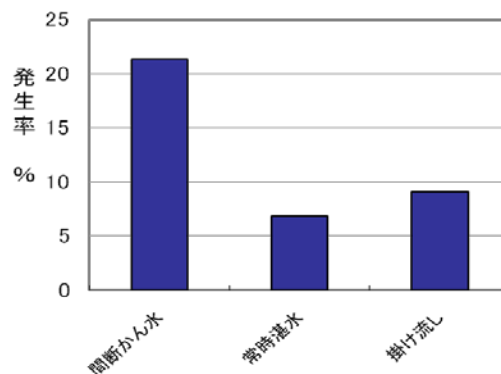
フェーンが予想される場合は落水後でも入水（走水）をお願いします。

### ② 「コシヒカリ」について

登熟中期を迎えている「コシヒカリ」の対策ポイントは、「出穂後3週間の湛水」と「早期落水の厳禁」です。

#### ●【出穂後3週間の湛水】●

高温登熟による胴割米、白未熟米の発生防止のため、「出穂前後3週間は圃場に水が入っている状態」としてください。



水管理と白未熟の関係(2010年、農業試験場)

注) 品種あきたこまち。発生率は水口区、水尻区の平均。  
湛水処理は出穂前後2週間の常時湛水、掛け流しは出穂後2週間の掛け流し。

今後著しい高温が続く場合は、冷水による生育遅れがなく、水利条件が可能な場合は、水温が高くなった田面水の入れ替え（掛け流しや昼間入水等）をお願いします。

出穂3週間以降も、落水までは「田面を保水させる こまめな水管理」をお願いします。

## ● 「早期落水の厳禁」 ●

今年は収穫適期が早まるため、早く落水して、土を固めたい（早期落水）・・・と思う場面があるかと思えます。

しかし早期落水は胴割米・白未熟米の発生を助長します。

このため、作業に支障のない範囲で落水は極力遅くし、作業優先の早期落水は避けるようお願いします。特に砂壤土は乾きすぎるので注意してください。

また台風等によるフェーン現象で異常高温・極端な乾燥条件になると、白未熟・胴割れ発生が助長されます。

フェーンが予想される場合は落水後でも入水（走水）をお願いします。

## 5 大豆栽培について

### ● 干ばつ対策

麦後大豆は干ばつの影響を受けやすい開花期を迎えています。今年はこれまで降雨に恵まれたため、順調に生育しています。

今後干ばつに転じて、葉の萎れが目立つ場合は、入水可能な圃場（用水が十分にある、茎疫病等の立枯れ性病害は発生していない）では灌水を実施してください。灌水は、昼間の暑い時期は避け、夕方以降に入水をお願いします。

また、急な雷雨やゲリラ豪雨により、圃場が滞水することも予想されます。排水対策はされていると思いますが、もう一度排水路の点検をお願いします。

## ● 帰化アサガオ（特にマルバルコウ）対策

帰化アサガオ類は、一端圃場に侵入すると、3年程度で圃場全体に蔓延し、防除が非常に困難になります。

発生個体の少ないうちが、根絶のチャンスです。圃場内、畦畔まわりをよく観察し、発生が認められた場合（オレンジ色の花が目印）は速やかに除去してください。

今までに発生のなかった圃場も確認をお願いします。水稻収穫作業で忙しくなる前の除去作業をお願いします。